資料４

播磨圏域経済成長戦略の方向性について

姫路市地方中枢拠点都市推進室

播磨圏域経済をとりまく状況・課題・方向性

国内外の経済・社会環境の変化（「ひょうご経済・雇用活性化プラン」より）

◆海外の動向

●グローバル化の進展
- 国際収支の変化　・国際交流の拡大

●新興国の発展と国際経済連携の進展
- 新興国経済の発展（中国・インド・ASEAN）
- 経済連携協定の進展
- 知的財産戦略の重要性の高まり

◆国内の動向

●社会構造の変化
- 少子高齢化・人口減少の進展
- 生産年齢人口の減少
- 中間・高所得層の減少
- 人口・産業の地域間偏在の拡大
- 消費税増税等の影響

●ライフスタイルの変化
- 多様な働き方・生き方の拡大
- 企業の変革・起業の低迷
- サービス消費の増加
- 高齢者の消費拡大

●イノベーションの進展
- 環境・エネルギー関連の需要拡大
- 医療、健康増進、介護・福祉関連サービスの需要拡大
- IT利活用の拡大

国の経済施策

（新たな成長戦略～「日本再興戦略―JAPAN is BACK－」～より）

◆日本産業再興プラン　–産業基盤を強化-
- 産業の新陳代謝　・雇用制度改革・人材力強化　・科学技術イノベーション強化
- ITの利活用促進　・立地競争力強化（エネルギー制約、特区等）　・中小企業の革新

◆戦略市場創造プラン　–課題をバネに新たな市場を創造-
- 「健康寿命」の延伸　・クリーンなエネルギー需給　・次世代インフラの構築
- 地域資源で稼ぐ社会（農業等）

◆国際展開戦略　–拡大する国際市場を獲得-
- 戦略的通商関係構築（TPPやRCEP等）・海外市場の獲得（インフラ輸出、クール・ジャパン等）
- 内なるグローバル化の促進（対内直投、グローバル人材）

兵庫県の経済施策

（「ひょうご経済・雇用活性化プラン」（H26～H30））

◆今後5年間で特に力を入れていく産業分野

【成長が見込まれる先端分野】
- 先端医療関連　・高度技術関連
- 次世代エネルギー・環境

【中小企業の強みを生かす分野】
- オンリーワン企業　・地場産業　・IT関連

【生活の質と地域の魅力を高める分野】
- 生活充実関連　・商業・商店街
- 観光・ツーリズム　・農林水産関連

◆兵庫の成長を支える3つの強化戦略

「産業力」強化戦略

「人材力」強化戦略

「国際力」強化戦略

播磨圏域の状況

経済成長の潜在力
- 全国でも有数の工業生産地域
- 世界最高水準の先端科学技術基盤
- 大学が有する豊富な知的資源
- 充実した交通・物流インフラ
- 多彩な地場産業・農水産物
- 世界遺産姫路城など魅力的な観光資源

国・県方針を踏まえ播磨圏域の強みを強化

播磨圏域経済成長戦略の方向性
- ➢「ものづくり力」強化
- ➢ブランド育成・強化
- ➢交流人口増加

各年齢別将来推計人口の推移

姫路市（地方中枢拠点都市）の経済施策

姫路市経済振興ビジョン（H24～H26）

⇒　新ビジョン（H27～）は、「ものづくり」の成長・発展に基礎を置く

播磨圏域経済成長戦略の方向性

～播磨圏域の豊かな資源を活用する5つの柱で播磨地域を活性化～

戦略の方向性

【「ものづくり力」強化】
ものづくりが高い比率を占める播磨圏域の産業構造において、ものづくりが元気になれば、他への波及効果も大きく、圏域の経済成長の原動力となる。

【ブランド育成・強化】
地域の商品・サービスにブランドという付加価値が付くことにより、価格を通常の商品よりも高くするだけでなく、地域そのものの価値も高める。

【交流人口増加】
観光客やコンベンション参加者など交流人口を増やすことで、人口減少の影響を緩和し、域内消費額の拡大を図ることで、地域経済の活性化を図る。

検討組織

【イノベーションクラスター】
新たなイノベーションを実現し、新規創業を促進するための施策及び産業を支えるエネルギー・環境施策について検討。

【ブランド育成クラスター】
産地・商品のブランド化・高付加価値化や新たな販路開拓のための施策について検討。

【広域観光クラスター】
圏域全体の観光資源を対象としたプロモーションや国際会議等の誘致施策などを検討。

播磨活性化の5つの柱

①「はりま・ものづくり力」の強化
SPring-8やSACLAなどの最先端装置の活用や、兵庫県立大学等との産学連携の取り組み促進などにより、イノベーションの推進を図る。

②「エコトピアはりま」の推進
水素や、バイオマスなどの再生可能エネルギーの活用による環境関連産業の創出とともに、持続可能な循環型社会を推進する。

③「はりま地域ブランド」の確立
播磨の多彩な地場産品のブランド化を推進する。また、農商工連携等による農水産業の振興や販路開拓など「フードバレーはりま」を展開する。

④「はりまグランドツーリズム」の展開
グランドオープン後の姫路城への観光客を、播磨全域に誘客するニューツーリズムを推進する。また、インバウンド観光の拡大を推進する。

⑤「魅せるはりま」MICE戦略
播磨圏域の観光資源を活かした「MICE」の誘致と、エクスカーションに圏域市町への訪問を促す広域対応型「MICE」を推進する。

①「はりま・ものづくり力」の強化

【背　景】『はりまは日本のものづくりの一大拠点』

播磨圏域は、古くから畿内・中国・山陰を結ぶ交通の要衝として栄え、皮革などの様々な伝統産業が発達するとともに、臨海部を中心に、基礎素材型製造業（鉄鋼・科学等）、加工組立型製造業（電気機械・輸送用機械等）を中心とした厚みのある製造業の産業集積を有しており、日本のものづくりの一大拠点となっている。

また、播磨科学公園都市には、世界最高性能の大型放射光施設「SPring-8」やX線自由電子レーザー施設「SACLA」等の最先端科学技術施設を有している。

【目　標】『世界に冠たるものづくりの一大拠点へ』

播磨の強みであるものづくり力の更なる向上に向け、これまで一部の利用にとどまっていた「SPring-8」等の最先端科学技術施設の活用に加え、近隣の神戸市にあるスーパーコンピュータ「京」や「FOCUS」との相互利用等を促進するとともに、地場産業の多種多様な独自技術と先端技術の融合を図ることなどにより、企業の革新的技術及び新製品の開発、創業などに繋げていく。

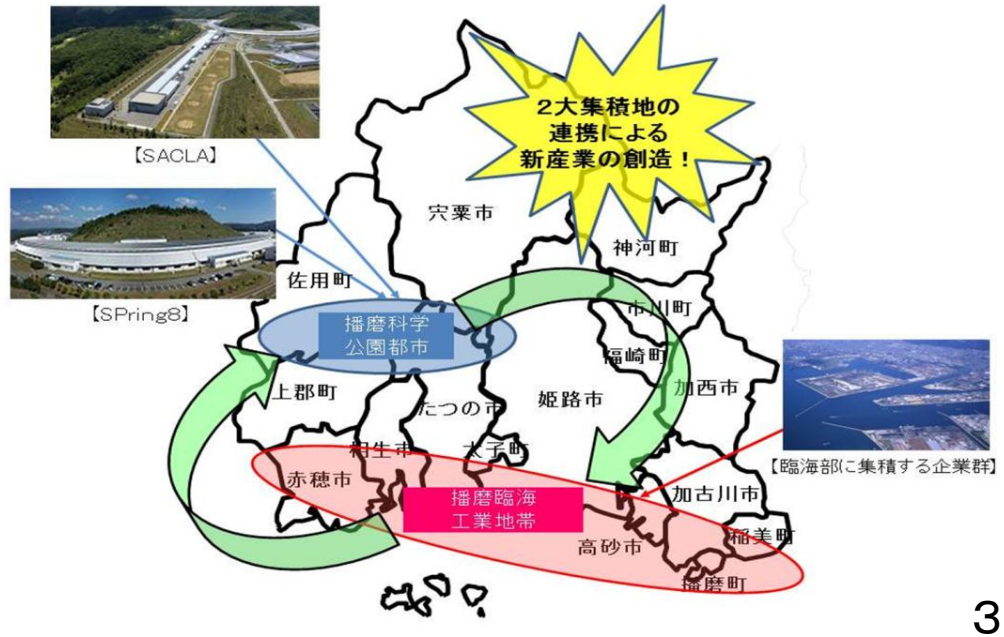
こうした取り組みにより、世界に冠たるものづくりの一大拠点を目指す。

【市町内総生産（平成２２年）】

（単位：：百万円）

市町名	第1次産業	第2次産業	第3次産業	関税	合計	市町名	第1次産業	第2次産業	第3次産業	関税	合計
姫路市	8,168	573,895	1,481,404	7,742	2,071,209	宍粟市	2,171	25,771	81,909	412	110,263
加古川市	1,736	189,417	565,493	2,839	759,485	太子町	213	28,679	68,636	366	97,894
高砂市	359	312,490	197,343	1,914	512,106	相生市	321	25,383	80,120	397	106,221
たつの市	2,379	116,357	156,557	1,033	276,326	佐用町	1,792	14,309	43,003	222	59,326
赤穂市	1,927	76,552	110,552	709	189,740	上郡町	657	8,273	31,933	153	41,016
加西市	2,715	79,522	94,859	664	177,760	市川町	574	11,164	18,981	115	30,834
稲美町	1,294	40,717	77,857	450	120,318	神河町	593	5,808	24,704	117	31,222
福崎町	1,035	77,140	52,851	492	131,518	圏域合計	26,023	1,633,911	3,138,835	18,005	4,816,774
播磨町	89	48,434	52,633	380	101,536	（割合）	（0.5%）	（33.9%）	（65.2%）	（0.4%）	（100.0%）
						全国平均（割合）	（1.0%）	（23.3%）	（74.8%）	（0.9%）	（100.0%）

全国平均より大幅に製造業の割合が高い！



①「はりま・ものづくり力」の強化（検討事項）（1）

事　項　名	検討内容
イノベーションの推進	多様な企業や研究者の交流の場を設け、イノベーションの実現、新規創業を促進する。
【圏域内の事業者に向けた異分野異業種交流】	
播磨圏域における産学金官民の交流推進	兵庫県立大学をはじめとする学会、及び関連組織団体との交流の場を創出し、播磨圏域内での異業種のコラボレーションを図ることなどにより、新製品・新技術の開発を促進する。
【新素材・新技術に関する講座の開設】	
「SPring-8」、「SACLA」、「ニュースバル」、「京」、「FOCUS」の利活用	兵庫県立大学産学連携・研究推進機構の活用を促進し、同機構による「SPring-8」、「SACLA」、「ニュースバル」、「京」、「FOCUS」の産業利用支援などを通じて新製品・新技術の開発を促進する。
【事業化に向けた産学金官の共同研究の実施】	
兵庫県立大学産学連携・研究推進機構との連携	兵庫県立大学と産業界を結び、研究協力及び学術交流を積極的に推進するコーディネートを行っている兵庫県立大学産学連携・研究推進機構の活動を支援し、新技術・新商品開発の開発を促進する。
姫路獨協大学等との連携	ハイテク化が進む医療・介護の分野において、独自技術を持つ企業と姫路獨協大学医療保健学部等との産学連携により、医療・介護の現場で役立つロボット開発などを促進する。
水素社会に向けた取り組み	兵庫県立大学「次世代水素触媒共同研究センター」と産官との連携による次世代エネルギーとして期待される水素の活用に向けた取組を検討する。

①「はりま・ものづくり力」の強化（検討事項）（2）

事　項　名	検討内容
【企業・大学間のコーディネーターの育成】	
姫路ものづくり支援センター（姫路商工会議所）との連携	相談企業と相談内容にふさわしい専門機関との「つなぎ」の機能を果たす「姫路ものづくり支援センター」を運営するとともに、圏域企業の活用を促進し、ものづくり力の強化を図る。
【新技術・新製品開発のための中小企業支援】	
企業・大学・学生マッチング事業	播磨圏域に集積する企業と大学との新たな技術交流の促進を通じ、地域のものづくり力の一層の強化を図るとともに、学生に対する地元企業への雇用機会の創出を支援する。
姫路ものづくり支援センター（姫路商工会議所）との連携（再掲）	相談企業と相談内容にふさわしい専門機関との「つなぎ」の機能を果たす「姫路ものづくり支援センター」を運営するとともに、圏域企業の活用を促進し、ものづくり力の強化を図る。
【起業に向けたセミナー開催】	
起業家フォローアップ事業	姫路商工会議所内に設置しているワンストップ相談窓口である姫路創業ステーションにおいて創業支援の体制づくりを支援するとともに、起業家向けセミナーを開催し、起業希望者を支援する。
【転廃業・集約化の促進】	
第二創業支援セミナーの開催	業態転換や新事業・新分野に進出する第二創業を支援するため、起業者向けのセミナーを開催する。
【その他】	
兵庫県立ものづくり大学校との連携	ものづくり大学校の活用促進を通じて、技術・技能を伝承し、播磨圏域のものづくり産業を支える人材力の育成を図る。

②「エコトピアはりま」の推進

【背　景】『環境・エネルギー問題』

社会情勢の変化に伴い、エネルギー制約が高まる中、新エネルギー・省エネルギー技術への需要は世界的に高まっている。

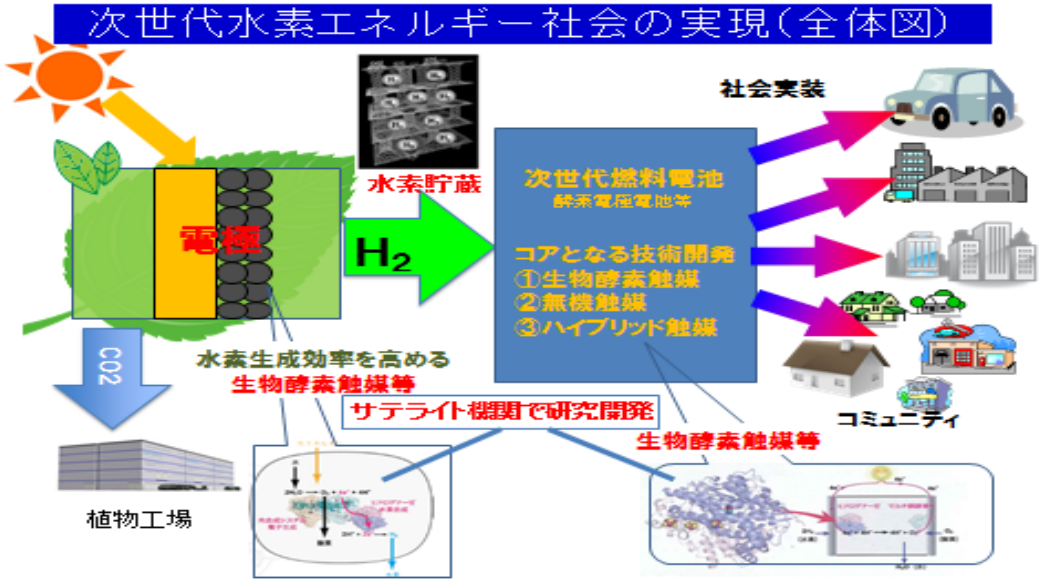
水素は、利用段階でCO2を排出しないエネルギー媒体であるとともに、分散型電源や輸送用エネルギー源としての活用が期待されており、家庭用燃料電池や燃料電池自動車の普及拡大が図られている。こうした中、兵庫県立大学は次世代水素触媒共同研究センターを設置し、水素エネルギー社会に向けた研究・開発を進めている。

また、播磨圏域は農地、ため池、森林など豊かな自然に恵まれる一方、様々な環境・エネルギー技術を持つ企業も有しており、そのような多様な資源を活用する余地が多く残されている。

【目　標】『環境と調和した環境関連産業の創出』

兵庫県立大学の次世代水素触媒共同研究センターにおける研究成果の産学連携による社会実装（研究開発の結果が社会で実際に使えることを具体的に確認すること）を経て、今後地域の経済や雇用を牽引する産業の1つとして、水素関連産業の振興に取り組む。

また、バイオマスなど播磨の豊かな地域資源と企業の独自技術を活かした地域循環型ビジネスモデルの構築など、多様な播磨の資源を産学官の連携等により積極的に活用しながら、環境と調和した新たな産業の創出を目指す。



（出典：兵庫県立大学作成）

（出典：資源エネルギー庁作成）

②「エコトピアはりま」の推進（検討事項）

事　項　名	検討内容
【事業化に向けた産学金官の共同研究の実施】	
水素社会に向けた取り組み（再掲）	兵庫県立大学「次世代水素触媒共同研究センター」と産官との連携による次世代エネルギーとして期待される水素の活用に向けた取組を検討する。
【その他】	
農地やため池を活用した太陽光発電	エネルギーの地産地消の促進、温室効果ガスの排出量削減に向け、農地やため池を利用したクリーンエネルギー対策を検討する。
木質系等バイオマスの活用	地域や企業が取り組むバイオマス利用システムの構築・利用施設整備の促進方策を検討する。
中山間地を利用した小水力発電	低炭素社会及び循環型社会の構築促進並びに地域の活性化に資するため本圏域の北部に広がる中山間地の高低差を利用した小水力発電を検討する。
健康・省エネ住宅の研究	地球環境の保全とともに、健康で安全、かつエネルギー消費の少ない生活を実現していくための住宅の研究をする。

③「はりま地域ブランド」の確立

【背　景】『豊穣の地 はりま』

古来より「豊穣の地」と呼ばれた播磨には、歴史と伝統に培われた多彩な地場産業が根付き、温暖な気候と豊かな自然がもたらす山海の食材に恵まれている。中でも、播磨の日本酒や革製品などは世界でも高評価を得ている。

また、播磨圏域では、酒・醤油・素麺などの発酵文化を育んできたが、「発酵」は、免疫力や抵抗力を高め、健康増進につながるとも言われている。このような食や栄養に関する研究機関として、兵庫県立大学先端食科学研究センターや姫路獨協大学薬学部などを有している。

【目　標】『はりまブランドの確立』

世界でも高評価を得ている日本酒や革製品をはじめ、多彩な播磨の地場産品の産地・商品のブランド化・高付加価値化を進め、地域ブランドを育成することにより産業振興を図るとともに、播磨圏域の価値を高める。

また、播磨の食と健康をテーマに、農商工連携等による農水産業の振興や販路開拓など「フードバレーはりま」を展開する。

はりまの地場産品・特産品（例）

【革製品】

【日本酒】

【醤油】

【手延素麺】

【靴下】

【にかわ・ゼラチン】

【ゴルフクラブ】

【赤穂緞通】

【国包建具】

はりまの農林水産物（例）

【山田錦】

【もち麦】

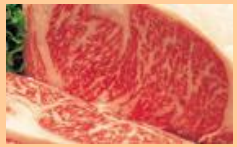
【そば】

【ゆず】

【黒大豆】

【ひまわり】

【モロヘイヤ】


【和牛】

【牡蠣】

【イカナゴ】

【あなご】

【海苔】

【ハモ】

【前どれ魚】

【キャベツ】

【ぶどう】

③「はりま地域ブランド」の確立（検討事項）

事　項　名	検討内容
【六次産業化に向けた設備投資の支援】	
【地域ブランド育成のための試作やPRの支援】	
播磨地場産品の展示会への出展	東京などの大消費地において、播磨圏域内の多様な地場産品（酒・醤油・革製品等）を展示会に出展し、PRを行う。
圏域外へのブランド産品の販路開拓	播磨の日本酒や革製品は世界でも高評価を得ており、国内外に向け情報を発信することで、さらなる販路の拡大を目指す。
海外への販路拡大	JETRO（日本貿易振興機構）と連携して、海外バイヤーとの商談会やセミナーを開催するなど、中小企業の海外販路拡大を促進する。
「はりまセレクション」（仮称）の立ち上げ	播磨の特産品の振興を通じ、選りすぐった多彩な地場産品による地域ブランドの育成を図る。
多彩な農水産物を活かした「フードバレーはりま」の形成推進	古来より「豊穣の地」と呼ばれた播磨は、山海の食材に恵まれるとともに、酒・醤油・素麺などの発酵文化を育んできた。播磨の食と健康をテーマに農商工連携等による農林水産業の振興を図り、農水産物の一大産地の形成を目指す。
播磨灘産水産物ブランドの育成	播磨灘で水揚げされる無名又は未利用の魚介類の利用促進や「前獲れ」海産物の消費拡大による地域水産業の活性化を図る。
健康機能食品の開発	播磨の地場野菜の高機能化を図るとともに、圏域内の多彩な食材を活かした産学連携による健康機能食品の開発を目指す。
【専門家の紹介・派遣】	
【売上動向等の把握と商品開発への反映】	

④「はりまグランドツーリズム」の展開

【背　景】『はりまの豊かな観光資源』

播磨圏域には世界遺産・姫路城をはじめとする国宝などの歴史建造物や文化・自然などの豊かな観光資源を有している。

今後、播磨地域が舞台となっている大河ドラマ「軍師官兵衛」による集客促進に引き続き、平成27年3月に大天守保存修理事業完了し、グランドオープンする姫路城には国内外から多数の観光客が期待される。また、東京オリンピック開催も決まり、国は、2020年の訪日外国人観光客数2000万人を目標とした観光立国・インバウンド政策を積極的に推し進めていく予定である。

【目　標】『観光客増による交流人口の増加』

平成27年3月のグランドオープン後の世界遺産・姫路城への観光客を、本市のみならず播磨全域に誘客する体制を整備し、「はりま酒文化ツーリズム」に続く、豊かな地域資源を活用したニューツーリズムを推進する。また、Wi-Fi環境の整備を進め、海外からのインバウンド観光の拡大を、官民連携して推進する。

こうした取り組みを進めることで、国内外の観光客の増加を促進し、交流人口の増加につなげていくことで、地域経済の活性化を図る。

播磨圏域各市町の観光客入込数

（千人）

市町名	22年	23年	24年	市町名	22年	23年	24年
姫路市	7,734	8,787	8,028	稲美町	139	116	126
相生市	746	621	720	播磨町	503	411	482
加古川市	2,281	2,272	2,319	福崎町	224	228	235
赤穂市	1,472	1,433	1,487	神河町	550	590	600
高砂市	1,091	1,085	1,072	市川町	154	163	147
加西市	853	821	858	太子町	212	232	189
宍粟市	1,172	1,178	1,202	上郡町	345	374	365
たつの市	1,882	1,915	2,001	佐用町	712	691	683

【出典：兵庫県観光客動態調査】

播磨圏域の豊かな観光資源

主要観光施設等	主要観光イベント等
・姫路城（世界遺産） ・書写山圓教寺 ・あいおい白龍城 ・鶴林寺（国宝） ・大石神社 ・鹿島神社 ・法華山一乗寺（国宝） ・播磨国一の宮「伊和神社」 ・新舞子浜 ・万葉の森 ・大中遺跡 ・リフレッシュパーク市川 ・もちむぎのやかた ・ヨーデルの森 ・斑鳩寺 ・播磨科学公園都市オプトピア ・西はりま天文台　　など	・北条節句まつり（4月） ・たつの市さくら祭（4月） ・相生ペーロン祭（5月） ・宍粟市藤まつり（5月） ・稲美ふれあいまつり（5月） ・市川まつり（7月） ・佐用町南光ひまわり祭り（7月） ・姫路お城まつり（8月） ・加古川まつり花火大会（8月） ・福崎夏まつり（8月） ・かみかわ夏まつり（8月） ・たかさご万灯祭（9月） ・灘のけんかまつり（10月） ・大中遺跡まつり（11月） ・あすかふるさとまつり（11月） ・白旗城まつり（11月） ・赤穂義士祭（12月）　　など

④「はりまグランドツーリズム」の展開（検討事項）

事　項　名	検討内容
【圏域内観光の受皿整備のための基本構想・計画の策定】	
広域ネットワークによる観光の推進	播磨圏域内における広域観光推進のためのプランを策定する。
【圏域全体の観光資源を対象としたプロモーションやファムツアーの実施】	
播磨の観光資源を活かしたツーリズム	世界遺産や国宝などの歴史的建造物をはじめ文化や自然など播磨圏域の観光資源を活かし、旅行者の多様なニーズに即した観光旅行を提供する。 【想定される観光資源】 世界遺産、国宝、寺社、酒文化、前獲れ料理、播磨国風土記・官兵衛等歴史、映画等のロケ地、産業（工場夜景、ものづくり体験）、スポーツ（ヨット、釣り、パラグライダー、カヌーなど）、ブルー（漁業体験）、グリーン（農業体験）、エコ（バイオマス）、医療（兵庫県立粒子線医療センター）、家島諸島（離島）、クルージング、自転車
【外国人観光客の誘致活動】	
Wi-Fi環境の整備と観光情報の発信	外国人観光客及び国内からの観光客が、無料で利用できるWi-Fi環境の整備を推進し、多様な観光情報を発信し観光客の利便性を向上させる。
インバウンド観光の推進	平成27年3月の世界遺産・姫路城グランドオープンや2020年オリンピックの開催等で、増加が期待できる外国人観光客をターゲットとして、インバウンド観光の推進を図る。
【圏域外の観光客を見込んだ大規模イベントの開催】	
播磨圏域外からの集客イベント開催	播磨圏域外からの集客のための大規模イベントを開催し、各イベントで圏域内の観光地等のPRを行う。

⑤「魅せるはりま」MICE戦略

【背　景】『国際観光・コンベンション都市』

姫路市は平成17年にコンベンション法による国際会議観光都市の認定を受け、平成18年には姫路観光コンベンションビューローを発足するなど、国際観光・コンベンション都市に向けた取り組みを進めている。また、姫路駅周辺のイベントゾーンにおいて、コンベンション施設の整備が検討されており、国際会議などの大きな会議の誘致のための受入環境も整備されていく予定である。

また、播磨圏域は、エクスカーション等のアフターコンベンションを充実させるための豊かな観光資源にも恵まれている。

【目　標】『MICE戦略による交流人口の増加』

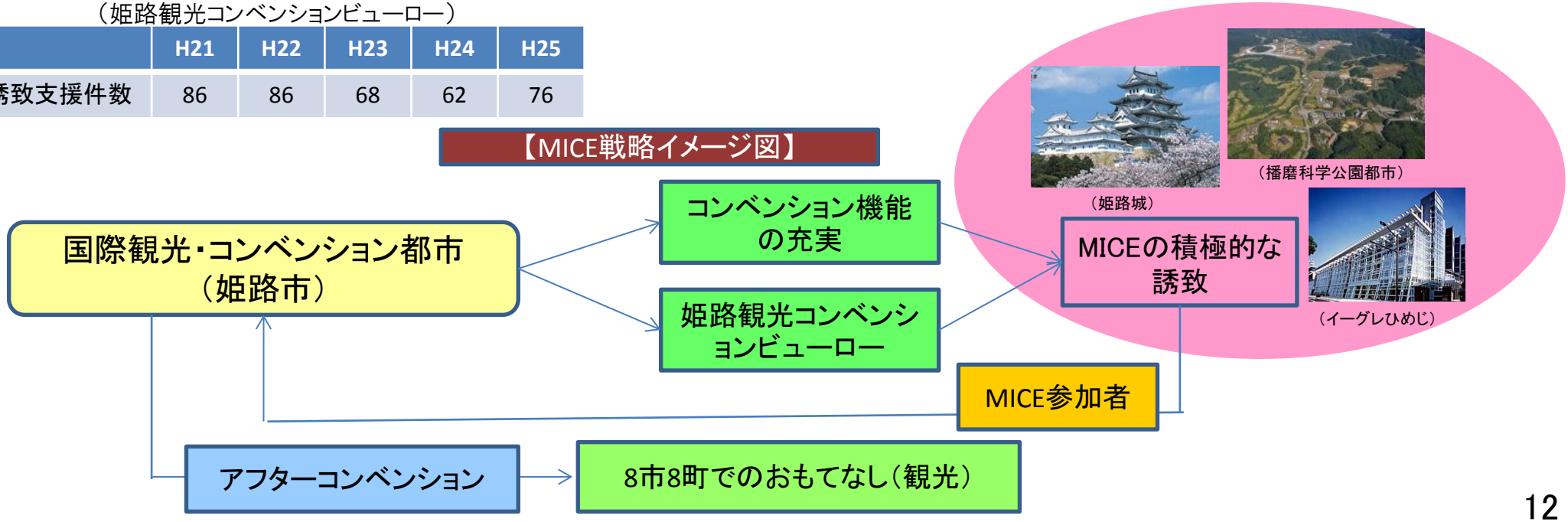
播磨圏域は、全国でも有数の工業生産地域であること、また、播磨科学公園都市には世界トップクラスの知的創造・技術イノベーション拠点が形成されていることなどから、それらに関係する企業や学会等の会議やイベントの誘致を進める。

また、世界遺産・姫路城や国宝などの歴史的建造物をはじめ豊かな食文化や風土・自然など播磨圏域の観光資源を活かし、コンベンション開催都市だけでなく、エクスカーションに圏域市町への訪問を促し、それぞれの特色を活かしたおもてなし事業を行うなどの、広域対応型「MICE」を企画・提案することにより、播磨圏域の魅力を発信し、交流人口の拡大を図る。

コンベンション誘致支援実績
（姫路観光コンベンションビューロー）

	H21	H22	H23	H24	H25
誘致支援件数	86	86	68	62	76

【MICE戦略イメージ図】



⑤「魅せるはりま」MICE戦略（検討事項）

事　項　名	検討内容
【経済波及効果・情報発信力の高い国際会議等の誘致と圏域内関連ビジネスとのマッチングの促進】	
国際会議・イベント等の誘致（MICE）	全国でも有数の工業生産地域であること、また、播磨科学公園都市には世界トップクラスの大型放射光施設「SPring-8」やX線自由電子レーザー施設「SACLA」を核とした知的創造・技術イノベーション拠点が形成されていることなどから、「AOFSRR」（放射光科学アジアオセアニアフォーラム）などの国際会議が開催されているところであるが、さらにそれらに関係する企業や学会等の会議やイベントの誘致を進める。
広域対応型のMICEの展開	会場や宿泊施設などの供給は、播磨圏域全体での受け入れ体制を推進するとともに、世界遺産や国宝などの歴史的建造物をはじめ豊かな食文化や風土・自然など播磨圏域の観光資源を活かした観光にも対応できるよう体制を整備していく。